

令和7年度 第2回伊勢志摩国立公園地域協議会 議事概要

日時：令和8年3月3日（火）14:00～16:00

場所：三重県営サンアリーナ レセプション室

結果

- SUP2030の策定については、多くのご指摘をいただいたため、今回は策定を保留とした。
- 今後のSUP2030策定スケジュールとして、再度修正したSUP2030を共有し、ご確認・ご意見をいただく書面決議により策定を進めることについて、承認が得られた。

主な意見

【令和7年度の取組について】

- バリアフリーに取組意欲のある事業者が多数いるにもかかわらず、「心のバリアフリー認定制度」では制度上の制約で認定を受けられない現状がある。
- 三重県や環境省には制度の枠組み変更について観光庁へ働きかけてほしい。

【SUP2030案について】

- 「障がいのある方」という表現は対象が限定的に見えるため、別の表現を検討してはどうか。
- 「4つの柱」のインクルーシブ（アクセシブル）については、両者は異なる概念であるため、括弧でまとめず、別々に記載すべきである。
- 個別指標は設定された点は評価できるが、現行の指標は実態に合わず測定が難しいものが含まれているため、現場の状況に即した指標へ再検討が必要である。
- 伊勢志摩のターゲットとして「地域住民・障がいのある人・海外の人」を挙げると、日本国内の一般の人々が対象外に見えてしまう。式年遷宮も控えており、日本国内の人々も重要なターゲットであるため、対象が限定されているように見える現状には違和感がある。
- SUP2030は伊勢志摩国立公園のビジョン実現に向けた施策を示すものだが、ビジョンと具体的施策のつながりが分かりにくい。
- 視点の説明に「深掘り」「多様」「連携」など、プロジェクト実施と共通するキーワードが含まれていれば、ビジョンから施策への流れがより分かりやすくなるのではないか。

質問に対し、事務局からの追加説明・補足した点

- インクルーシブとアクセシブルの扱いについては、アクセシブルを削除する案も含め、指摘を踏まえて検討する。
- SUPの根幹は「多様な人々にとって楽しめる価値のある国立公園」を実現することであり、その点により正確に伝わるよう、表現を見直したい。
- ビジョンと施策の間に距離があるという指摘は妥当であり、来年度からビジョン実現に向けた取組が本格的に始まるため、計画を具体化しながら段階的に近づけていくことが重要である。